

白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

第1890回例会 | 令和8年2月26日
18:30～19:30



創立40周年

○ソング

- 奉仕の理想

○スマイルBOX

- 藤田龍文会長（本日は、関谷会員の卓話ありがとうございました。本日、職業奉任のため、中座しますこと、お許しください。）
- 運天直人幹事（関谷さん卓話ありがとうございます。またあらためて受章おめでとうございます。）
- 宮本多加夫会員（先日の、叙勲祝賀会においては、ロータリーの多くの会員にお世話になりました。）
- 関谷亮一会員（本日へたな卓話させていただきました。ありがとうございました。）
- 成井正之会員（宮本先生、旭日小綬章受賞おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。関谷会員卓話ありがとうございます。）
- 佐藤幸彦会員（蔵王温泉スキー交流会に行ってきました。藤田会長、「御樽」ありがとうございました。参加した会員の皆様、おつかれさまでした。）
- 青木大会員（明日、誕生日を向え53才になります。会からお祝いをいただきありがとうございます。今年も元気にケガのない1年にしたいと思います!!）
- 大住由香里会員（関谷会員、本日は貴重なお話ありがとうございました。先輩方の背中を追いかけて私も頑張っていこうと思います。）
- 山縣栄寿会員（本日もスマイルさせていただきます。）



【今週の仮メイクアップ会員】

- 2月13日 米沢中央ロータリークラブ訪問
藤田龍文、運天直人、金田昇
- 2月14日～15日 蔵王温泉スキー交流会
金田昇、鈴木孝幸、堀田一彦、佐藤幸彦、青木大、中嶋一貴
- 2月24日 深谷ノースロータリークラブ訪問
藤田龍文、運天直人、金田昇、諸橋和典、成井正之、十文字光伸、吉成真五郎

▶第1890回例会出席状況

(R8年2月26日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	57名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	17名
Ⓓ 全正会員数	74名
Ⓒ ①の出席者数	19名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓕ ②の出席者数	9名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	28名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	66
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	42.4%

本日のプログラム

■会長の時間

藤田龍文会長



皆さん、こんばんは。本日は社会奉仕委員会の担当例会ということで、関谷会員から卓話いただくという例会になっていますので、どうぞよろしくお願いいたします。2月、大変ロータリーの行事がおおごさいまして、まず先週の3クラブ合同新年会ということで、主幹は白河南ロータリーさんではありましたが多くの皆様にご参加いただきまして誠にありがとうございます。そして、2月23日当クラブの宮本多可夫先生の旭日小授賞の祝賀会が「シン鹿島」のほうで盛大におこなわれまして、改めまして宮本先生おめでとうございました。ちょうどですね、2月13日は米沢中央ロータリークラブにメーキャップしてまいりまして、上杉雪灯籠まつりというのに参加してまいりました。ちょうど金曜日が例会日だったんですが、上杉雪灯籠まつりは次の日の土日ということだったので、私どもはひたすら雪灯籠を作るということで、米沢中央ロータリーの皆さんと雪灯籠を作ってまいりました。その辺は今日の週報のほうに、スキー愛好会の懇親風景とも合わせて出ておりますのでご覧いただければと思います。米沢中央ロータリークラブさんは来年が周年ということでだいぶ熱が上がってきているようですので、次年度の体制の方々は来年の雪灯籠を白河西ロータリークラブ様用に2本。今回は1本をみんなで作ったのですが2本用意していただけたということなので、次年度の方は是非雪灯籠まつりの灯籠を作りによく参加していただければと思います。そして、2月14、15日はスキー愛好会の皆様が山形の蔵王にて、山形のロータリークラブのメンバーとスキーの交流会をしてきたということで、楽しいスキー風景や懇親会風景が出ておりますので、そちらも見いただければと思います。そして、2月21日には地区のラーニングセミナーということで、こちらも地区行事に多くの皆さんにご参加いただきまして誠にありがとうございました。白河西主幹ということですので、通常よりも多くのメンバーがそれぞれの部門でお手伝いいただき、朝から夜までご活躍いただいたということで感謝を申し上げます。そして24日、昨日、一昨日、昨夜とちょっと続いているもので、24日は深谷ノースロータリークラブに7名でメーキャップしてまいりました。周年の案内や地区大会の案内。そして、金田ガバナーエレクトもいろいろお話をしてお話を親交を深めてまいりました。ちょうど金田ガバナーエレクトが会長の時に姉妹クラブを締結して15年目ということになったようなので、金田ガバナーエレクトも来年のガバナー体制のアナウンスもありましたが、自分の時の締結の会長の時の締結ということで、思いがとても深かったというようなことと思います。ちょうど今、金田ガバナーエレクトインスタグラムのほうなど見ますと、昨日と今日で今度は東京の地区大会のほうにご出席されてるようなので、大変お忙しい日程をお過ごしになってガバナー年度に向けての準備を着々と進

めてるのではないかと思います。その他、重なってなんか申し訳ないなと思いましたが、ホームミーティングのちょうど実施機関でもありますので、このロータリー行事が沢山ある合間に各班の皆さんちょっとご苦労されてホームミーティングを実施されてということなので、そちらのほうも終わった方々はお疲れ様です。これからの班の方はまた頑張ってお怠りない意見交換をしていただければと思います。本日は関谷会員の卓話ということなんですが関谷会員も昨年旭日双光章そちらを受賞されて、当クラブこの一年間でもう2人の褒章受章者を出してということなので、大変貴重なご経験というか、誇り高き賞をいただいた方が2名いらっしゃるということですので、そちらのほうも今日そういったお話もあるかと思っております。是非皆さんで勉強になる卓話にしていただければと思います。本日はよろしくお願いいたします。

■幹事報告 運天直人幹事

○白河赤十字奉仕団：奉仕団団員の報告について

○泉田ガバナー事務所：【最新版】地区補助金申請書について(0219版)

○金田ガバナーエレクト事務所：次年度ロートアクトクラブ会長・幹事予定者の詳細情報と顔写真データ恵与のお願い

■各委員会報告

●地区ラーニングセミナーのお礼 諸橋和典地区幹事予定者



皆さん、こんばんは。金田ガバナーエレクト、次の地区幹事予定者の諸橋です。先日、「グランディ那須白河」で行われました地区ラーニングセミナーにつきましては、皆様にご協力いただきまして無事終了することができました。今日は金田ガバナーエレクト、先程言ったように不在でして、矢田部実行委員長もちょっと欠席ということで私がお報告させていただきます。それと、3月末にはPELS、会長エレクトラーニングセミナーがあります。まだまだ地区行事が続きますけれども、皆様のご協力なしではエレクト行事も進みませんので、次回もどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

●スキー愛好会

堀田一彦会員



スキー愛好会から簡単なお報告をさせていただきます。スキー愛好会で2月14日、15日に、天童ロータリークラブが主催のスキー交流会に参加してきました。参加者は佐藤幸彦会長とそのご家族、青木大会員とそのご家族、鈴木孝幸会員、中嶋一貴会員、堀田。それと、懇親会で金田ガバナーエレクトにもご参加いただきまして、とても楽しい交流ができました。14日、15日いずれも本当に晴天で一番いい天候で、本当に楽

しいスキーと交流ができたのかなというふうに思います。スキー愛好会からの報告は以上です。

■本日のプログラム

●会員卓話

社会奉仕委員会担当例会

関谷亮一会員



皆さん、こんばんは。社会奉仕委員会からの要請で会員卓話ということで依頼をいただいたんですが、私喋るのが駄目なんです。お酒のみだったら大丈夫なんですけど、私お話しするのがなかなか駄目なんですけども、まあ自分なりに思いのまま

にお話させていただきたいなというふうに思いますので、よろしくお願ひいたします。テーブルに1枚のちよつと最近の食糧の消費量とかそういうものを参考にばらつと置かせてもらったんですが、それは詳しいことは後で見てもらえばそれでいいと思います。私も農業始まって60年手がけてからやっておりますが、幸いにしてここ10年ぐらひは息子夫婦が跡を継いでやっていると、比較的時間ができてきたなあとというふうに思うんですが、それでも私は家へ帰れば労働者なものですから、田んぼの土手を刈ったりトラクター乗ったり、まあそれはやってまして、この間なんかは乾燥が続きましたよね。長い間1か月も雨が降らないんですから。そこで2回目のトラクターをかけたら、トラクターが火事になってんだか何かと思う程ももん土埃があがって、さすがキャビンのトラクターでも運転台がざしざしになるような状況で、この少雨にはまいったなとそんなふうに思ったんですが。まあいずれにしても、我々の商売はお天道様との戦いということなんです。今回のように雨が降らないと、しばらくこういう訳で雨が降らない。そして、降らなくてもいい時に嫌というほど雨降る。そして、災害が起きるというようなことなんです。そんなことが我々の宿命なんですけど、その中でやはり農業生産を上げて食糧を作ってくという、この商売に携わってやられているということは私は大変ありがたいなとそんなふうに思っております。私は高校終わってから農業に就いたんですが、うちがちょうどその時分は田んぼが2町5反ぐらひと養蚕ですね、お蚕さん。若い人はちよつとわかんないかも、絹糸を取るお蚕、それを飼ってそしてそれから畑には麦とか小麦を作っていくんですが、私もこれからの農業はこういうことでは駄目だなということも感じながら高校2年生の時にトマトを始めました。学校行ってるわけですから、しょつちゆう手入れはできないので、親父にこうやってくれああやってくれというふうに頼んで私は学校行ってたんですが、まあトマトを作ったといつても遊び程度で500本ぐらひですけど、それでトマト作りをスタートしたんですが。それからずっと60年トマト作りをやってきました。その中には、先程言いましたように自然災害に何回もいじめられました。一つは、今はハウスでトマト作ってますけど昔は露地ですね。何もなくて作って、トマトは自然まかせですから大体5月10日から15日頃畑に植えるんですね。ところが、遅霜、晩霜ですね。この遅霜が今はそんなに遅くまで霜が降

らないんですけど、当時は5月30日でも零下2度か3度ぐらひになってしまった。それで、当時3500本の植えたトマトが全滅になったということで、本当に私もショックを受けましてね。早いうちだったら水をかければ大丈夫だなんていう話があったんですけど、まあそれを動力噴霧器を持ってって水をかけましたが、99%駄目でした。たまたま私もその時にJAの野菜生産部長をやっておったもんですから、トマトはこの地域で作って東京や京浜方面に販売してたんですが、私はその生産部会長だったので、早速生産物の受け手になる東京市場のほうに行きました。向こうでは何言うかと思つたら白河はトマトが全滅じゃないかと。もう情報は早いんですね。これでは我々ももう当てにならないということで、向こうではね。そんなことで、しかし私は何ていうか負け惜しみとか頑張ったんですね。いや大丈夫です、去年の80%は出荷できますとこう力んだんですね。じゃ、何故そういうふうにできるんだと、あんな広い所が何故できるんだということになったわけですよ。それで全国のトマトの産地から苗を余つたやつを集めて、例えばこの辺で近いのは皆さんご存じのように南郷トマトが始まったばっかなんですね。南郷さんからトマトの苗を若干いただいて、その他トマトって皆さん家庭菜園で作っててわかるように順繰り芽を欠いていくのわかりますよね。脇芽を欠いていくんです。脇芽が出るので。その脇芽を切って、挿し木をして、根っこを出させて、それを苗をして植えていった。その他、埼玉のほうにもあったので埼玉まで行って余つた苗を持ってきて、この辺矢吹からこっちですね。植えたんですよ。まあしかし、やっぱり苗をこう蝶よ花よと育てて植えたのとは違って、やはりいろんな病気が出たりなんかしてね、致命的なかいよう病というのがありますが、何て言うのかねえ、人間でいえば癌ですかね。もう壊滅的に再生はまず難しいというのがその病気なんですけど、それでやられて結局は結論的には前年対比45%ぐらひしか出荷できなかった。秋の販売が終わった後に東京に行って、そしたら関谷さん、最初言って力んだのと全然違うじゃねえかとかっていじめられて帰ってきましたけど。私は何故そこで頑張ったかということ、ここの地域が出荷量が少なくなつて、少なくなれば物というのは上がりますよね、値段は。しかし、そうではないんです。というのは、東京では岐阜とか中京のほうから名古屋の奥のほうから、岐阜、それから長野、あつちのほうは霜に当たらなかつたわけですから。東京も岐阜から調達されちゃうと、結局はこっちのほう量が量少なくてもあんまり値段も出なくて総生産量がもう金額的にも落ちちゃうということもありまして、私は80%以上はいくと言って頑張ったんですけど、結論的にはそういうことで、最終的にはやはり岐阜方面から本当は岐阜方面は名古屋に青果物を送るのが普通なんですけど、やっぱり東京も人口多いですからね。あつちから引張らなきゃならないということで、岐阜から調達したということで、最終的には非常なまれに見るほど減収でひどい目に遭つたと。それが一つ。それから、私にとつてもう一つ大きいのは平成10年8月27日の大水害ですね。阿武隈川が暴れましたね。

白河の水産市場の魚が阿武隈川で泳いだって聞いてると思うんですよ。あそこも流されましたから。私の家でもご覧のとおり黒川という川ですから、それが那珂川に注ぐんですよ。その黒川も氾濫して私のビニールハウスが900坪あったんですけど、それ全部押し流されて朝になって見てみたら目の前が、まあ早い話ドナウ川みたいになって、こっちから向こうまで、こっちの山から向こうの山まで400メートルくらいあるんですけど、その400メートルが一つの川になって流れた。見たらハウスの頭だけがちょっと見えるだけで、ほとんどこれはまずいなと思ってたら案の定植えたトマトが全部やられて、皮肉にも林檎平ちゃんとこの鱒がハウスの中で泳いでたと。皮肉にもね。だから本当にね、檜平さんに言ったんですよ。あんたのやつをね、大水だって流さないでよこせばいいのに、うちのハウスのトマトの中に鱒が泳いでたぞなんていう話をして檜平さんに冗談で言ったことがありますけど。ちょうど檜平さんのフォレストを作ったばっかだったんですよ。その檜平さんもあそこに養魚場作るのには、あの川は県境ですから一番先に栃木にそそぐわけですね。栃木にそそぐ所の集落の許可を貰わないとあのフォレストやることできなかったんですよ。檜平さんに聞くと怒られちゃうけど、檜平さん私のとこに来て関谷さん何とかしてくれということで、私も栃木の一番入り口のね、組合長さんというか町内会長のとこ行って、いやあ鈴木さん、こういう訳だから判子押してくれと。いやあ、亮ちゃん来たんだから押すべって言ってベタとこう押してね、それで決まりで県に許可証願いを出したと。檜平さんはね、こりゃあしめたなと思ったんじゃないかなあ。檜平さんとこのフォレストも非常に盛って当時には、今は寺内タケシは亡くなっちゃたけど、あの寺内タケシが来て野外コンサートをやって虫ムンムンというところで野外コンサートやって、寺内タケシもこんな虫いるとこでやったの初めてだぐらいのこと言って、そんなこともありましたね。そんなことでちょっと話ははずれましたが、そういう被害も受けたと。まあそういうことで、いずれにしても平成5~6年の米の大凶作ってあったの知ってる人いると思うんです。タイから米を輸入したらネズミのしっぽが入ってたと、覚えてらっしゃる方いると思うんですけどあの年ですね。あの年は私もあの頃でそうですね、4~5町歩くらい作ってたかね。西郷方面にも作ってました。品種によってなんですけど、もう大清水から4号線の間だったんですけど、収穫量が大体1俵くらいでしたね、1俵。10アールから取れる量が1俵。五箇のほうに行くと7俵も8俵も採れたと。いわゆる標高差によって冷害の度合いが違うかったというのがその年の状況だったんです。それは五箇のほうや東村のほうにすれば当時の農業共済というのがあるんですけど。農業共済というのはいわゆる保険ですね。あの時分は、今は10アールあたりのやつを抽出してこの圃場では何俵採れますという評価員がいて、それによって保険金が出るというのが当たり前なんですけど、当時はもう大冷害だということで、一律に10アールあたり幾らということで農水省では共済組合を通じてお金を出したんですよ。だから、この辺でいえば他の

人には、五箇とか東村のほうの人たちは7俵か8俵結構採れた。そこへ共済金も取れた。史上空前の大豊作ということになったんですよ。佐川さんはわかってると思うんですけど、当時それは平成5年の話です。そういうふうにいるんな災害を受けながらやって経験してきたんですけど。時には、強風に煽られてハウスがやっぱり私もそうですね、450坪くらい潰されましたかね。もう抑えように何しようもないですね。風力であれを煽られたら、で、もう何ていうか放出感に見舞われるというか、人間弱いですよ、そういう時には。それから、雪にもやられました。雪ではやっぱり100坪から150坪くらいやられましてその都度新しく建て直して、負けてたまるかってなんか映画か何かでありましたよね。負けてたまるかでやったんですけど、まあそんなことでハウスも強化をしてやりましたが。当時、その水害あった時、この辺はもう白河地方はどこからどこまで水浸しだったですよ。私の息子も東京のほうで大学終わって、向こうに就職してたもんだから、とにかく来て見てみると。惨状はすごいから見てみなとということで来て、彼も新幹線で来たんだけど降りたらタクシーも何もアウト、全然駄目ですということで、歩いて家まで来たんですけど。惨状を見て驚いたんでしょうね。その時に、私はしめたなと思ったんですよ。それは何故かということ、息子が「親父、俺帰ってくるかい。」ってこうなったわけですね。でまあ昔からね、災害転じて福となすという言葉ありますけど、そこまではいかないにしても私は心の中では、おしめたなと思いました。いや、お前がそう思うんだったら帰ってきてやりなさいと。そしたら、「ところで親父、俺ら夫婦と子供に飯食わせられるのか。」ということを言うわけね。食わせられるも食わせられないもお前の働き一つだということで突っぱねたんだけど、まあそんなでも嫁さんが東京で勤めてたんだけど向こうを辞めて、そしてこっち戻ってきてね、今それなりに曲がりなりにもやっていますけど。そんなことがあって、いろいろと最初の今まで来る間にはいろんなものが出てきました。もう一つは、私はその高品質トマトってロータリークラブで先に入った方々はご存じだと思うんですけど、その水害あった後に建て直してから、私も微生物の研究というか植物に対する微生物がね、どういうふうに作用するかということで、いわゆるその頃そろそろ水耕のトマトがあちこちで始まった。いわきのほうでも始まった。オランダの方式でやってんですけど。水耕栽培と土耕栽培と二つあるわけですけど、私は土耕栽培のほうですから土を使った。その土の中のメカニズムは微生物の力を借りて作物を作るというところに着目をして、岩手の宮林さんという人の門を叩いていろいろと教えていただいて。全国バイオ研究会というのが起ち上がっていたもんですから、その門を叩いて全国の皆さんとその微生物の研究をやりました。その頃、ちょうど沖縄の琉球大学の比嘉照夫先生がEM菌があるということで、EM菌は聞いたことあるでしょ、皆さんね。今だとEM菌もあまりこう聞かなくなりましたが、当時はあれもこれもEM菌。EM菌さえあれば何でもできるみたいな、登校拒否も治るなんていう話もありましたよね。嘘か本当かわかん

いですけど。そういうあれで、私らは微生物はやはり私の考えは微生物と一概に言っても沖縄の微生物とこっちの微生物同じかというところではないというのが私の持論なんですけど。やはり昔、土方の領分、一理四方は土方の領分なんて言葉がありましたよね。それと同じく、微生物もやはりこの地域で培った落ち葉がどんどん落ちてって中に繁殖したその微生物が活躍している。その微生物が一番この地域に合ってるということ私は確かめたと言ったらおかしいんですけど、それが一番いいなということで思ってその微生物を培養して。培養は簡単なんです。微生物はどこにでもありますから。竹やぶの中にこう器にご飯を入れて、そして砂糖を入れるんですね。砂糖。そうすると、暖かい時はすぐに3日も置くと白いカビですね。微生物というのはカビですから。だから、そういう微生物によって肥料というか、そういうものをいろんなものを分解してくと。有害な病気の根源になるものをフザリウム菌とかいろいろあるんですけど、そういうものをやっつけるのはやはり微生物なんです。だから、我々が今お医者さんにかかっていますけど、医薬品はほとんど微生物から作られてる。だから、宝酒造にしる協発酵にしる、昔は焼酎のメーカーだったかわからないけど、今は医薬品のほうに全部シフトしてね、医薬品作ってますよね。あれは全部微生物から抽出していろんな癌の薬でもいろんな、簡単なのはカビから作ったやつはペニシリンなんていうのは昔からあるやつはね、あれは微生物の最たるものだと思うんですけど。そういうことで植物にもやはり微生物を使った植物は、やっぱり私は食べていただく人にとっては非常に美味しいということになると思うんです。微生物が入っている肥料吸いますね、作物は。例えば、ハウレンソウに肥料やって三要素ってあるんですが、窒素、リン酸、カリっていうのが基本的な肥料の三要素なんですけど、それはそれだけあれば育つのは育つんですよ。だけど、青々になってぶーっと育ったハウレンソウは非常に見栄えは最高ですね。これは見栄えは最高だけど、食べたら美味しくない。何故かという、一気に育つたためになんていうんですか別な言葉でいったら、このハウレンソウは大味になって大味だなあっていう感じかな。いわゆる、その逆にいうと真美のある美味しいハウレンソウだなというのと比較対象にすればわかりますよね。だから、冬のハウレンソウなんかも茎の赤みの出てるハウレンソウをお買いになったほうがおいしいハウレンソウだと思います。だから、トマトもやはり肥料ガバッと吸うトマトじゃなくて、徐々に吸いながらも育つトマトは美味しい。それは見分けるのには、トマトがこうありますと上から見ると放射状に何となく筋が入ってるのわかりますか。トマトなり口は下ですけど、上から見るとその一番頭がこう放射状に筋的に上から見ると入ってるんですよ。そういうトマトは買っても美味しい。ヨークベニマルで買っても、そういうのがあればそういう買ったほうが美味しいですね。そういうようなことで、やはり買い求める時にはそういうものを見られたほうがいいんじゃないかなというふうに思います。私も若い頃は意外と生意気だったんですよ。ていうのは、私は下

黒川という集落に住んでいたんですけど、この黒川の田んぼが人の田んぼを渡らないと自分の田んぼに行けないというような状態だったね、昔は。これは若い人で川の縁でバーベキューをやってお酒飲んでるうちに若い人から「おお、亮あんにゃ、こんなでどうするんだ、何とかしろ。」とかこう言うわけね。何とかしろって、なんて言ってね酒飲みながらいろんな意見を交わしながら飲んでる調子に私も「じゃあ俺に任せろ」となってやっちゃったのね。これは男だから一回言ったら後に下がるわけにはいかなくなって、いわゆる35町歩ですが。あそこの圃場整備を手がけました。圃場整備ってわかりますよね。区画を大きくして今は3反歩。大きい所で船田あたりだと1町歩という所なんですけど、そんなことで圃場整備の年配の人を会長に立てて、私は舞台回しを、早い話運天幹事のようなものだね。幹事役で。そんなことでやりましたけど、反対者が3町5反も持ってる人が私反対だということでも2件あったんですね。これには困りましたね。あらゆる手を使って親戚だの何かに行ってもらったりしていろいろして、片方の家には私50回通いましたか、片方の家には60回くらい通っていろいろやっただけど、それでも拉致あかない。そうすると、それやらない人ってのはやらない理由を小出しにしてくるんですね。こうだから駄目だとかあだから駄目だとか、じゃあそんなやつを満たしてやれば、今度は別なものを持ち出すという、非常に私から見ると卑怯だなと思うんですけど、そんなことで圃場整備をやりました。お陰様で、昭和60年私が白河第五小学校をぶっ建てる時に、ぶっ建てるって言ったらおかしいけども、新築した時にあそこに記念碑を建てるのに今だと川から石上げると建設事務所に怒られますけど、鈴木建設の社長に頼んで内緒でこんなでかい石を上げて、そして小学校のところに今ありますけど、その引き揚げた覚えありますけどね。その時にそれと同時に小学校の新築。後程、南中学校も新築やっただけど、その時分は小学校だったんですけど。そんなことで、反対する人をどうなだめるかということでもいろいろ苦しみましたけど、これはやっぱりどうしようもねえなということで、最終的には真ん中の道路途中でぼつって切って、で後の時代になったら先輩は何やってたんだということでも何とかするだろうということでもそこで切ってしまった。今もそのままになってますけど。ただ、昭和60年頃ですからそれをやって今もう40年以上経ってますけど、もう全部終わってそして取れるようになったし皆さん喜んでね、やってるということは良かったなというふうに思うんですけど。そんなことで、皆さんわかるとおりこの辺の水田いろいろありますよね。田植え時期になれば田植えになる。稲刈りになれば黄金色になりますけど、この田んぼの水回りを全部管理してるのが私理事長やらしてもらってる白河市土地改良区ということ。白河市のあらゆる水、各集落ごとの水の監督とか司どってるのは私のほうの土地改良区というところがやっています。私もその理事長を今年12年やらせてもらっているんですけど、まあお陰様で今までそういう圃場整備がなかなかできなかったと、泉田という所わかりますか。泉田地

区もやっと8年前に何とかしなくちゃならないということ言ったもんですから、それから職員も動いてくれて今年令和8年から面工事が始まるんですけど、その場所は皆さんしょっちゅう通ってる東北中学校の前ですね。東北中学校の前から4号線までのあの間。約2町ちよっとくらいですね。それがやるようになりました。それから、ほとんど白河市はもう圃場整備終わってますけど、なかなか終わってな所があるんですが大和田地区という所ありますけど、大和田は川がないんですね。池は沢山あんですけど川がない。この前の台風19号の大水で稲わらが全部流れたっていう時ありましたよね。あの時に久田野の駅のトンネル、その川なるとここに藁詰まっちゃって大和田地区がアップアップしちゃったと、そういうことがあって、そこはどうするかということで、圃場整備をやらなくちゃならないんじゃないかというようなことで、地元の役員の方も熱心に動いていただいて、つい先だって市長に会いまして、市長何とかしてくれと。そしたら、じゃあ関谷さん、県に行った時に一言言っておくからなんていう話だったんですね、これ裏話ですけど、。そしたら、県の段階では採択になったということで、これはもう時間を経てば大和田地区もあの地区もかなりいい田んぼができるんだらうと思います。でも、これからあと7~8年先になると。ただ、泉田は来年には田んぼの形ができてくると。いずれにしても、市内の水商売の所は大変儲かる水商売ですけど、私のほうの水商売はあんまり儲からなくて皆さんから賦課金をいただいてやってるもんですから、私も県から太陽光の補助金をいただいて無利子の補助金をいただいてね、農家農村特有の事業を持ってきて根田の所に川の上に太陽光がちょっとあんのわかりますか。根田の所ね。あそこと白坂の駅前池がありますよね。あその池の脇にやっぱ低圧ですけどあそこ一個と、それから関辺に池があるんですよ。その池の上にフロート式のパネルを生かして、それ低圧ですけどそこでも電気起こして今やってんです。そんなことでいろいろやらしていただいて、まあ私も宮本先生と同じく先程ご紹介いただいたんですが、昨年の春ですね、旭日双光章という賞をいただいて、宮本先生と同じく皇居まで行かせてもらって天皇陛下の拝謁をいただきました。本当に人生にとっては幸せな事だったなというふうに思っております。それもひとえに、このロータリークラブに私も昭和61年に入会させてもらってね、皆さんのいろんな農村地帯の人間にはなかなかよくわかりませんが、そういう町の雰囲気とか、あるいはその他のいろんな業種の方々の考え方とか、そういうものを勉強させていただいて、一番大変だったとかどうしようかと思つた時ありました。それは先程も言いましたように大水害に見舞われた時に、平成10年ですけど11年に私会長やることになっていたんです。ハウスは900坪も潰されちゃった、どうするかということで幸いにしてそのハウスを片付けるのに西白河郡から百何十人の人たちが応援に来てくれて全部片づけてくれたと、そういうことがありました。これはありがたかったですね。仲間というのは凄いなと思いました。そんなこともありまして、会長

をどう引き受けるか。今ここで私は出来ないと言ったら困るなとこういふふうに思っていたんですが、幸いに中目宮司が幹事をやっていただきました。中目宮司もご覧のとおり、頭脳明白で非常に素晴らしい人ですから、もう隅から隅までてきぱきといろいろやっていただいて、私は名前だけ、名前だけ会長ですからやらせていただいて一年ね。皆さんにお世話になりながらロータリークラブの皆さんに励まされて、そしてその大水害を乗り越えられたとそんなふうに思っております。あと一つだけ、一つだけとかちよっとだけお話したいんですが、これ皆さんのとこに配ったんですが、この農業の消費量がものすごく下がって、いろんなものが下がってるんですよ、これ。これこのとおりなんですけど、これはね、昔は米さえ食べれば弁当の中に米入れて梅干し一つ入れれば弁当食べたんですね。今は米の量とおかずの量考えたらご覧のとおりでしょ。当時、三春の福島県副知事やってた湊徹郎先生というのが衆議院議員になって、わかる人何人かいると思うんですが。その先生が衆議院議員になった時に本を書いたんですね。その時に、『胃袋革命』という本を書いたんです。これからは米ばかり食ってられないよと。胃袋の中は、肉だ野菜だ果物だと、そういうものを食べなきゃ駄目だと。それに対応した農業をやらなくちゃならないって言ったのが湊先生なんですね。そんなことで今回、そのいろいろな消費量も下がって生産量も下がってる中で、やはり今世界中は非常に混乱の時代に入ってきたと。今、日本は今回の米騒動の時も341円の関税払ってでも輸入出来たということ、他に4,500円もする時に輸入米を2千円台で2,800円位で売ったということもありましたけど。まだそうやって輸入できる時代はいいですけど、将来的におそらくアメリカも中国も自国主義にみんな走ってるんですね。そういう中で、やはり自給率を高めるということが最大の目的にしなければならぬなと思うんです。時間もありますが簡単に申し上げますと、日本の自給率何%だかおわかりですか。自給率、カロリーベースなんですけど。それには書いてないとは思いますが38%なんです、自給率ね。ちなみに、一番自給率あるのはオーストラリアの233%、カナダが204%、フランスが121%、アメリカが104%、ドイツ、イギリス、これは工業国ですよ。工業国でも70%あるわけです。そういうことで中国が93%。そんなことがありますので、私たちはいかにやはり輸入すれば事済むという時代はもうだんだん去りつつあるのかなと、そんなふうに思います。したがって、やはり農業そのものが国内で生産するものをどう安定させていくかというのがこれからの課題かとそんなふうに思いました。ちょっと時間3分程長くなりましたが、ご清聴いただきましてありがとうございました。